

今月は、言葉の楽しさに触れることのできる本をご紹介します。

『目でみることばのずかん』

おかべ たかし／文 やまで たかし／写真 東京書籍 2016年 ¥1600(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★☆ 小低学年★★★★ 小中学年★★★★ 小高学年★★☆ 中学生★★☆

高校★★☆ 一般★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

「ひっぱりだこ」という言葉の由来は？「冬」という漢字の成り立ちは？「アザラシ」と「アシカ」はどう違う？「キー(key)」と「ロック(lock)」の違いは？

この本は、これらをすべて写真で表している本です。あわせて38の言葉を迫力のある美しい写真で表現し、簡単な解説も加えています。

<子どもに手渡す時のポイント>

言葉に興味を持ち始める頃に手渡してあげると、楽しみながら言葉の世界が広がっていくと思います。振り仮名もついていて解説も少なく、小さい子どもでも読める作りになっています。パラパラとめくって写真を見るだけでも楽しめます。

中学生以上くらいならば、同じ著者による『目でみることば』1～3、『目でみる漢字』、『似ていることば』、『似ている英語』もおすすめします。これらは、『目でみることばのずかん』のもとになっている本ですが、振り仮名もなく、もう少ししっかりとした解説がついている一般書です。楽しく言葉の世界に触れられるシリーズです。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。